

1 自己評価及び外部評価結果 (1ユニット)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170103986		
法人名	有限会社 アルファメディカル		
事業所名	ハートヴィレッジ老松		
所在地	岐阜県岐阜市老松町10		
自己評価作成日	平成21年8月20日	評価結果市町村受理日	平成21年12月4日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170103986&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成21年10月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市内の中心部にあり、近隣からの利用者が多く、家族、友人が立ち寄りやすい為、住みなれた地域の中での暮らしが継続されている。近くには公園、神社があり、そこでの夏祭り等、地区の行事にも参加し地域に開かれている。建物は、3階建てで、1階は関連機関のデイサービス、向かいには身体障害者授産施設があり、普段より行事参加等交流をしている。施設内では、家庭的な雰囲気を利用者の笑顔がみられる。母体が医療機関で訪問看護を含めた医療と介護が連携を密にし、利用者はもちろん家族も安心して生活できている。前回の改善課題であるモニターについては、夜勤者が一人の為夜間のみ使用している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者の権利を尊重し、誰でも、いつでも、必要なケアを提供する「利用者第一主義」を理念とし「立ち寄りやすい」「話しやすい」ホーム作りを目指している。また、「笑顔で」「優しく」など、職員の質の向上にも力を入れホーム内外の研修に参加している。絵が上手、写真撮影が上手な職員や外国人など、それぞれの個性や特技を活かし入居者に笑顔で接している。健康の基である食事は「旬の物を」「出来発てを」「匂いを嗅いで」と七輪で秋刀魚を焼いて入居者・近隣住民と食するなど職員の工夫努力がある。母体の病院・訪問看護など協力体制が整っており、健康管理・緊急時の対応も安心できる。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念に地域との交流を深めながら、利用者様第一主義を掲げており各フロアーに掲示し、同じものを保持している。それぞれの利用者に対応したサービスができるよう職員間で話し合い、連携を心がけ理念を大切に業務にあたっている。	法人の理念を基に、地域密着型サービスを踏まえてアレンジし、各ユニットに掲示すると共に職員も常に携帯している。会議でも話し合い共有している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの喫茶店、神社、薬局など散歩を兼ね、外出する機会を持っている。利用者が祭りや運動会などにも参加し、楽しみながら地域とつながりを持ち暮らせるように努めている。	自治会に加入し、ゴミ拾いの行事に参加して言葉を交わしている。保育園児、アニマルセラピー等のボランティアとも交流している。認知症講座のチラシを入居者と配る等地域住民と触れ合いながら日常的に交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	回覧板などを利用し地域住民、地域の行事などは協力し(祭り、運動会、盆踊り等)毎回参加でき、利用者も楽しみにされている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組みや情報交換を行い、改善課題を話し合ったり、地域の理解と支援を得るための話し合いを行い、サービス向上に活かしている。	会議では毎月発行の「老松たより」を説明し、重度の入居者も盆踊りに参加できることに感心する等率直な意見がある。しかし参加者が正式な議事録として残されていない。	記録を残すことで、意見の経過を報告する等、継続的に取り組みながら運営に活かされることを期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の運営や取り組み内容を伝え、(運営推進会議等)報告や課題解決のため協力関係を築くよう取り組んでいる。	法改正の理解や提出書類について、又、スプリンクラー設置の件、福祉車輛の駐車場所について、担当者と気楽に相談する等協力関係を築いている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の所在や様子を把握し、安全を確保しつつ自由な暮らしを支援するため、常に職員間で話し合い、日中は各フロアの出入口の施錠を取りやめている。	職員は身体拘束の弊害を理解している。車椅子の入居者を座りきりにせず、又、体操やレクリエーション等も苦痛のない参加を促し、食事時のエプロンも最小限の工夫をしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、ミーティング時に個々のカンファレンスを行い問題点等について話し合い、虐待につながらないようにしている。		

ハートヴィレッジ老松

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている利用者が2名おり、これらの制度について学ぶ機会を持ち、話し合うようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、十分な説明を行い納得されたうえで、手続きを進めている。また、内容が変わったときは、その都度口頭又は文書等で伝え理解を得ている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者及び利用者の家族に出席していただき、意見・要望を伺う。また、面会時など利用者の近況報告をお伝えしながら意見・要望をきき、サービスの質の確保、向上に努めている。	毎月発行の「たより」で行事報告や日常を知らせている。遠方の家族には電話で意見や要望を尋ねている。「運営推進会議で介護保険制度の理解ができた」の意見等もあり気軽に言いやすくなり、運営に反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや日々の業務の中、職員の意見や提案を聞く機会をもうけ、動く意欲の向上や質の確保に努めている。	管理者は「人の輪」を大切に捉え、外国人の職員も言葉・文字の不得手もあるが、個性を活かし職員同士支えあう関係ができています。1時間の休憩時間を有効に「何でも言える関係作り」で意見を反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者もミーティングに参加し、現場の把握に努めている。また、相談にも対応している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員に対してマンツーマンでのOJT体制をとり、ケアの技術や利用者との関わり方を指導している。外部研修は段階に応じて各々が出席し、ミーティングの場等で発表している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と交流し、グループホーム協議会に加入し、勉強会や相互研修会で事例検討する機会をもち、サービスの質の向上をめざしている。また、他の事業所の見学を依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の声に耳を傾け本人の思いや不安を受け止め、安心していただけるよう努めている。また、本人が置かれている状況(心身の状況も含め)を理解し工夫している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの相談はしっかり聞き、家族の求めているものを理解し、信頼関係を築けるよう努めている。またこれまでの苦労やサービス状況にも耳を傾けている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の本人、家族の要望や実情を見極め、必要に応じて関係法人サービスの紹介等、他のサービスの利用の調整を行ない柔軟な対応をしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「人生の先輩である」という考えを職員が共有し、日々の暮らしの中で、利用者に教えていただくことも多い。得意分野で力を発揮してもらえよう、工夫や声掛けをしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いに寄り添い、本人の日々の暮らしや気付きの情報を面会時や、電話等で報告、相談する事で協力関係を築けるようにしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院やお茶のお弟子さんなどとの交流など、今までの生活で本人を支えてきた友人、知人、また本人が支えてきた人間関係を継続できるよう支援している。	入居後親戚関係とわかり、就寝前には一緒に読経している。茶華道の弟子が訪問し、師弟関係を継続している。又、同級生と外食し、馴染みの関係が切れない支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共に助け合い、支えあって暮らしていけるよう職員が注意深く見守りし、お茶の時間や食事の時間も共有しながら利用者一人ひとりが孤立せずに暮らしを楽しめるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後でも、利用者家族からの相談や支援に応じながら経過を見守っている。時には、行事に参加していただいたり遊びに来ていただけるようにしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が日常生活の会話や、係わり合いの中で、言葉や表情などからも思いや意向の把握に努めている。また、家族や友人からの情報を得ることで検討している。	一人ひとりの思いは居室でゆっくり聴いたり、日々の暮らしの中で把握している。ワープロで想いを伝える人や、困難な人には、その場の雰囲気等で察する等、又、家族や訪問者からも情報を集める工夫をしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からお話を伺い、生活歴やライフスタイルを把握できるように努め、入居後も日々の生活の中で多くの情報を把握し、職員全体で共有し活かしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活のリズム、心身の状態を把握し、その方のペースで過ごしていただけるよう支援している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思いを大切に、現状にあった個別のケアを出来るよう職員同士話し合い、意見交換をしている。モニタリングやケアカンファレンスを行い、介護計画を作成している。	ミーティングで職員から意見や情報を集め、参加した家族の意見も取り入れ、入居者の現状にあった介護計画を作成している。往診日に医師の指示を受ける等、状況変化に合わせて臨機応変に作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を立て、利用者の日々の様子、心身状態の把握にも努め、情報を共有しながら状況やニーズに応じ随時検討している。また、話し合いを行い現状に即した計画をたてている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	季節ごとのイベントや、家族・友人との外出、外食、自宅宿泊などの機会を持てるよう支援している。利用者個別の要望を取り入れるよう取り組んでいる。		

ハートヴィレッジ老松

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の盆踊り、祭り出来るだけ多くの方に参加してもらい、保育園児を招き交流を楽しみ、外部のボランティアも来設して頂き、楽しいひと時を過ごしている。理美容師が来設し、買い物には職員同伴で出かける。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の協力医の往診と訪問看護を実施している。家族が、送迎か往診が可能であれば、かかりつけ医に継続して診てもらっている。	かかりつけ医は本人・家族の希望にあわせており、受診は職員の代行も可能である。協力医師・訪問看護師はそれぞれ月2回診察に訪れ、職員とも常に連携を取りながら支援している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は関わりの密接な介護職からの情報や気づきをその度に主治医に報告、指示を受け、また受診時に報告し適切な医療を受けられるように支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族と密接に連絡をとり、安心して治療、早期退院が出来るように病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応と終末期のあり方は、早い段階からお話して、十分な理解を得られるように事業所で出来ることを説明し、方針を共有している。	終末期についての方針を契約時に説明している。段階的に協力医と家族が話し合い連携を取りながら、入居者、家族の思いを尊重しホームで支援する等職員も認識している。昼夜を問わず協力医の受診も可能で、安心して最期を迎えられるよう支援している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急などの初期対応が出来るように、研修を通してマニュアル化し、掲示している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導で災害避難訓練を行い、利用者の避難方法を確認している。	デイサービスと合同で消火器の使用方法を学び、避難訓練を実施している。連絡網を活用し夜間想定した訓練を計画している。食糧備蓄は母体で準備している。しかし、災害時の地域協力への声かけがされていない。	入居者と職員だけの訓練に留まらず、近隣住民、警察等と連携を図り、災害など緊急時の協力体制について話し合うことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に敬意を払い、人格を尊重し、さりげない対応や声掛けをしている。また、特に排泄や入浴ではプライバシーに配慮し、対応している。	トイレ誘導や入浴時など、入居者の誇りやプライバシーを損ねないよう声かけをし、さりげない対応に心がけている。意思表示が困難な人にも本人の気持ちを大切に考えて支援している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の表情や反応を大切に、本人が選びやすいよう、些細なことでも自己決定できるような場面作りをしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や食べたいもの、飲みたいもの等体調管理をした上で一人ひとりのペースを大切にし見守り支援をしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みや意向に応じ、その人らしい身だしなみやおしゃれを個別に支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が同じ食事を、同じテーブルで味わっている。利用者にお茶を注いでいたり、箸を用意していただいたり、職員と一緒に食事環境作りをしている。	食材は法人一括購入だが、入居者の好みにあわせ買い物に行き、形を変え、工夫して調理している。一緒に一連の作業をし、語りながら楽しい食事をしている。おやつづくりは特に楽しい時間となるよう配慮している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー不足や水分不足が起こらないように、毎日の食事摂取量や水分摂取量を記録し、職員同士で情報提供をしている。水分不足の利用者には、ゼリーも用いて水分摂取を促している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの大切さを利用者にも理解していただき、毎食後行っている。また、一人ひとりの個別の対応を行い、実施の記録をしている。		

ハートヴィレッジ老松

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄のパターンを職員全員が把握しており、排泄チェック表を使用して、時間を見計らってトイレ誘導等の支援をしている。	排泄パターンを把握しながら、身体機能に合わせた誘導を工夫している。パットから尿器に、オムツからリハビリパンツに等、入居者一人ひとりに適した方法を考え、自立に向け支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を記録、使用し、水分量の配慮や、飲食物の工夫や個々に応じた対応をしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1番風呂の好きな方、土曜日に入りたい方など、一人ひとりの要望、体調に合わせて、入浴が楽しめる様、支援している。	週2回を基準にし、入浴順序など入居者の希望にあわせ決めている。みかん風呂、花風呂等入浴剤を変えて楽しんでいる。併設のデイスービスにある大風呂を利用し、温泉気分を味わう工夫もしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	これまでの生活習慣や日々の体調を把握し、安心して休息していただけるよう支援している。また日中の活動を促し、生活のリズムを整えるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書をカルテに入れ、職員が把握できるようにしてあり、服薬時は名前、日付の確認をし、記録に残している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生花、写経、ワープロもしたりと個々の得意なことを楽しめる様、支援している。また、喫茶店へ出かけたり気分転換等の支援もしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせ、天気や体調に応じ、外出の機会を作っている。(喫茶店、買い物、外食)また、地域のイベントにも参加している。	日常は地域の人と挨拶したり、近隣の店舗に日用品の買い物や、向かいの授産所に出掛けている。又、喫茶店では自分で支払う支援もしている。地域行事や、季節の花見等、希望を取り入れ出掛けている。	

ハートヴィレッジ老松

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>小額の現金を手持ちで持ってみえる方は、本人・家族の了解を得て、お預かり金として預かっており、買い物時に利用している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>年賀状やお礼状など利用者の希望に応じて、電話や手紙を出せるよう支援している。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節感のある生花などを飾り、利用者の作品、写真なども、工夫して居心地の良い空間を作っている。</p>	<p>玄関には入居者が花を活け、便りやお知らせを掲示している。廊下には入居者自身が相撲の写真を貼り、テーブルには季節の花や金魚が泳ぎ、入居者それぞれの特技や想いを活かし居心地よく過ごせる工夫をしている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホール、廊下にソファや椅子があり、仲の良い利用者同士が談話をして、くつろぐスペースがあり利用している。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れたタンスや寝具、写真、絵画、仏壇などをもち、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。その人らしく過ごせるよう配慮している。</p>	<p>居室の入り口には好みの暖簾を掛け、季節の花、手離せないぬいぐるみ、毎日のお勤めのお珠数、外出の靴が並んでいたり、職員が書いた似顔絵等、その人らしい暮らしの工夫をしている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>風呂やトイレなどに大きく見やすい案内をし、分かりやすい明示をしている。トイレ、廊下などには手すりをもうけて、安全に自立した生活が送れるようにしている。</p>		

1 自己評価及び外部評価結果 (2ユニット)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	
法人名	
事業所名	
所在地	
自己評価作成日	評価結果市町村受理日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念に地域との交流を深めながら、利用者様第一主義を掲げており各フロアーに掲示し、同じものを保持している。それぞれの利用者に対応したサービスができるよう職員間で話し合い、連携を心がけ理念を大切に業務にあたっている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの喫茶店、神社、薬局など散歩を兼ね、外出する機会を持っている。利用者が祭りや運動会などにも参加し、楽しみながら地域とつながりを持ち暮らせるように努めている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	回覧板などを利用し地域住民、地域の行事などは協力し(祭り、運動会、盆踊り等)毎回参加でき、利用者も楽しみにされている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組みや情報交換を行い、改善課題を話し合ったり、地域の理解と支援を得るための話し合いを行い、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の運営や取り組み内容を伝え、(運営推進会議等)報告や課題解決のため協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の所在や様子を把握し、安全を確保しつつ自由な暮らしを支援するため、常に職員間で話し合い、日中は各フロアの出入口の施錠を取りやめている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、ミーティング時に個々のカンファレンスを行い問題点等について話し合い、虐待につながらないようにしている。		

ハートヴィレッジ老松

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている利用者が2名おり、これらの制度について学ぶ機会を持ち、話し合うようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、十分な説明を行い納得されたうえで、手続きを進めている。また、内容が変わったときは、その都度口頭又は文書等で伝え理解を得ている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者及び利用者の家族に出席していただき、意見・要望を伺う。また、面会時など利用者の近況報告をお伝えしながら意見・要望をきき、サービスの質の確保、向上に努めている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや日比の業務の中、職員の意見や提案を聞く機会をもうけ、動く意欲の向上や質の確保に努めている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者もミーティングに参加し、現場の把握に努めている。また、相談にも対応している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員に対してマンツーマンでのOJT体制をとり、ケアの技術や利用者との関わり方を指導している。外部研修は段階に応じて各々が出席し、ミーティングの場等で発表している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と交流し、グループホーム協議会に加入し、勉強会や相互研修会で事例検討する機会をもち、サービスの質の向上をめざしている。また、他の事業所の見学を依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の声に耳を傾け本人の思いや不安を受け止め、安心していただけるよう努めている。また、本人が置かれている状況(心身の状況も含め)を理解し工夫している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの相談はしっかり聞き、家族の求めているものを理解し、信頼関係を築けるよう努めている。またこれまでの苦労やサービス状況にも耳を傾けている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の本人、家族の要望や実情を見極め、必要に応じて関係法人サービスの紹介等、他のサービスの利用の調整を行ない柔軟な対応をしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「人生の先輩である」という考えを職員が共有し、日々の暮らしの中で、利用者に教えていただくことも多い。得意分野で力を発揮してもらえよう、工夫や声掛けをしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いに寄り添い、本人の日々の暮らしや気付きの情報を面会時や、電話等で報告、相談する事で協力関係を築けるようにしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院やお茶のお弟子さんなどの交流など、今までの生活で本人を支えてきた友人、知人、また本人が支えてきた人間関係を継続できるよう支援している。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共に助け合い、支えあって暮らしていけるよう職員が注意深く見守りし、お茶の時間や食事の時間も共有しながら利用者一人ひとりが孤立せずに暮らしを楽しめるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後でも、利用者家族からの相談や支援に応じながら経過を見守っている。時には、行事に参加していただいたり遊びに来ていただけるようにしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が日常生活の会話や、係わり合いの中で、言葉や表情などからも思いや意向の把握に努めている。また、家族や友人からの情報を得ることで検討している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からお話を伺い、生活歴やライフスタイルを把握できるように努め、入居後も日々の生活の中で多くの情報を把握し、職員全体で共有し活かしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活のリズム、心身の状態を把握し、その方のペースで過ごしていただけるよう支援している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思いを大切に、現状にあった個別のケアを出来るよう職員同士話し合い、意見交換をしている。モニタリングやケアカンファレンスを行い、介護計画を作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を立て、利用者の日々の様子、心身状態の把握にも努め、情報を共有しながら状況やニーズに応じ随時検討している。また、話し合いを行い現状に即した計画をたてている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	季節ごとのイベントや、家族・友人との外出、外食、自宅宿泊などの機会を持てるよう支援している。利用者個別の要望を取り入れるよう取り組んでいる。		

ハートヴィレッジ老松

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の盆踊り、祭りに出来るだけ多くの方に参加してもらい、保育園児を招き交流を楽しみ、外部のボランティアも来設して頂き、楽しいひと時を過ごしている。理美容師が来設し、買い物には職員同伴で出かける。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の協力医の往診と訪問看護を実施している。家族が、送迎か往診が可能であれば、かかりつけ医に継続して診てもらっている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は関わりの密接な介護職からの情報や気づきをその度に主治医に報告、指示を受け、また受診時に報告し適切な医療を受けられるように支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族と密接に連絡をとり、安心して治療、早期退院が出来るように病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応と終末期のあり方は、早い段階からお話して、十分な理解を得られるように事業所で出来ることを説明し、方針を共有している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急などの初期対応が出来るように、研修を通してマニュアル化し、掲示している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導で災害避難訓練を行い、利用者の避難方法を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に敬意を払い、人格を尊重し、さりげない対応や声掛けをしている。また、特に排泄や入浴ではプライバシーに配慮し、対応している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の表情や反応を大切に、本人が選びやすいよう、些細なことでも自己決定できるような場面作りをしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や食べたいもの、飲みたいもの等体調管理をした上で一人ひとりのペースを大切にし見守り支援をしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みや意向に応じ、その人らしい身だしなみやおしゃれを個別に支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が同じ食事を、同じテーブルで味わっている。利用者にお茶を注いでいたり、箸を用意していただいたり、職員と一緒に食事環境作りをしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー不足や水分不足が起こらないように、毎日の食事摂取量や水分摂取量を記録し、職員同士で情報提供をしている。水分不足の利用者には、ゼリーも用いて水分摂取を促している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの大切さを利用者にも理解していただき、毎食後行っている。また、一人ひとりの個別の対応を行い、実施の記録をしている。		

ハートヴィレッジ老松

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄のパターンを職員全員が把握しており、排泄チェック表を使用して、時間を見計らってトイレ誘導等の支援をしている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を記録、使用し、水分量の配慮や、飲食物の工夫や個々に応じた対応をしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1番風呂の好きな方、土曜日に入りたい方など、一人ひとりの要望、体調に合わせ、入浴が楽しめる様、支援している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	これまでの生活習慣や日々の体調を把握し、安心して休息していただけるよう支援している。また日中の活動を促し、生活のリズムを整えるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書をカルテに入れ、職員が把握できるようにしてあり、服薬時は名前、日付の確認をし、記録に残している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生花、写経、ワープロもしたりと個々の得意なことを楽しめる様、支援している。また、喫茶店へ出かけたり気分転換等の支援もしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの週間や楽しみごとに合わせ、天気や体調に応じ、外出の機会を作っている。(喫茶店、買い物、外食)また、地域のイベントにも参加している。		

ハートヴィレッジ老松

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>小額の現金を手持ちで持ってみえる方は、本人・家族の了解を得て、お預かり金として預かっており、買い物時に利用している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>年賀状やお礼状など利用者の希望に応じて、電話や手紙を出せるよう支援している。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節感のある生花などを飾り、利用者の作品、写真なども、工夫して居心地の良い空間を作っている。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホール、廊下にソファや椅子があり、仲の良い利用者同士が談話をして、くつろぐスペースがあり利用している。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れたタンスや寝具、写真、絵画、仏壇などを持ち、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。その人らしく過ごせるよう配慮している。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>風呂やトイレなどに大きく見やすい案内をし、分かりやすい明示をしている。トイレ、廊下などには手すりをもうけて、安全に自立した生活が送れるようにしている。</p>		